

2020年3月期 第2四半期決算説明会

挑戦と創造

2019年11月18日

アイカ工業株式会社

1

ただ今ご紹介頂きました
アイカ工業の小野でございます。

本日は当社の2020年3月期第2四半期決算説明会に
ご参加頂きまして、ありがとうございます。

それでは、
これより当社の中間決算の概況と、今後の事業展開について
ご説明させていただきます。

本資料に掲載されているアイカ工業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報からアイカ工業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われますようお願い申し上げます。

1. 2020年3月期 第2四半期実績
2. 2020年3月期 通期計画
3. セグメントの実績および方策
 - 3-1 化成品セグメント
 - 3-2 建装建材セグメント
4. 中期経営計画C&C2000の進捗
5. 配当について

目次に従って、
第2四半期決算実績、通期決算計画、
その他ご覧の項目について、ご説明いたします。

まず、第2四半期決算の実績についてご説明いたします。

1. 2020年3月期第2四半期 連結決算の概要

AICA

[単位:百万円]

	2019/3期 第2四半期		2020/3期 第2四半期				
	実績	率	計画	実績	率	伸率	達成率
売上高	90,832		95,200	91,848		1.1%	96.5%
営業利益	9,670	10.6%	10,300	10,005	10.9%	3.5%	97.1%
経常利益	10,109	11.1%	10,500	10,502	11.4%	3.9%	100.0%
四半期純利益※	6,044	6.7%	6,400	6,582	7.2%	8.9%	102.9%

※:親会社株主に帰属する四半期純利益

[一株当たり単位:円]

一株当たり四半期純利益	92.58	-	98.02	100.82	-	8.9%	102.9%
-------------	-------	---	-------	--------	---	------	--------

4

2020年3月期第二四半期の連結業績の概要は、ご覧の通りです。

売上高 918億 4,800万円、

営業利益 100億 500万円、

経常利益 105億 200万円、

親会社株主に帰属する四半期純利益 65億 8,200万円となりました。

なお、「親会社株主に帰属する四半期純利益」については、以後、「四半期純利益」と省略させていただきます。

売上については、原材料費低下による売価低下の影響をうけ、

営業利益については、操業度の低下をうけ、

若干計画を下回る結果となりましたが、

経常利益、四半期純利益は、計画を上回ることができました。

1. 第2四半期 連結決算の概要

AICA

伸び率

売上高	+1.1%	10期連続増収
営業利益	+3.5%	10期連続増益
経常利益	+3.9%	10期連続増益
四半期純利益※	+8.9%	4期連続増益

売上	: 7期連続 過去最高を更新
営業利益・経常利益	: 8期連続 過去最高を更新
四半期純利益※	: 3期連続 過去最高を更新

※親会社株主に帰属する四半期純利益

■国内事業:住宅向け 好調、非住宅向け 低調

■海外事業:一部地域で景気減速

タイ・ケミカル社、ソイス社の新規連結 寄与
東南アジアにおける化粧板販売 好調

5

これを受け、

売上は10期連続増収、営業利益・経常利益は10期連続増益、
四半期純利益は4期連続増益となりました。

また、売上高では7期連続、営業利益・経常利益では8期連続、
四半期純利益では3期連続で、過去最高を更新しました。

この上半期、

国内建設事業においては、
住宅向けが好調に推移したものの、
非住宅向けが低調でした。

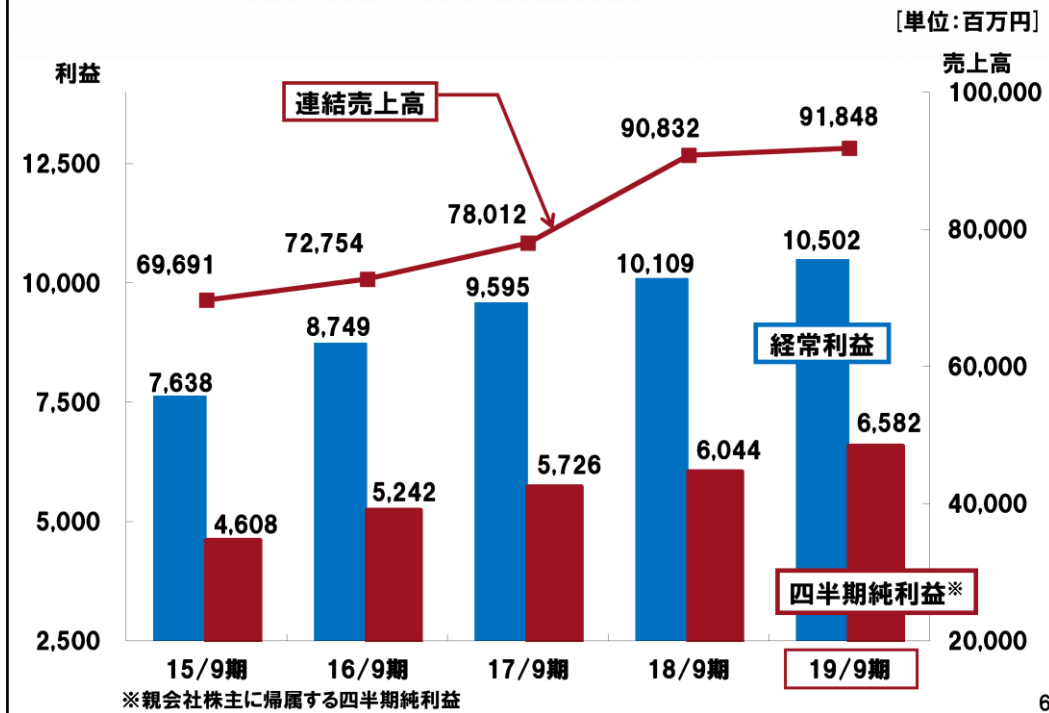
海外事業においては、

一部地域で景気減速が見られましたが、
タイ・ケミカル社、中国のソイス社の新規連結が寄与しました。

また、東南アジア地域における化粧板販売も
順調に売上を伸ばすことができました。

1. 第2四半期 連結決算の推移

AICA



最近5年間の第2四半期の
連結売上高、経常利益、四半期純利益の推移は
スライドの通りです。

1. 第2四半期 主要項目の状況

AICA

	2017/9期	2018/9期	2019/9期
	連結	連結	連結
設備投資額	19.7億円	32.7億円	39.3億円
減価償却費	17.0億円	19.6億円	20.9億円
研究開発費	13.0億円	15.3億円	16.3億円
借入金残高	20.7億円	47.8億円	60.2億円
期末人員			
国内	1,563人	1,599人	1,672人
海外	1,852人	2,284人	2,430人
合計	3,415人	3,883人	4,102人

7

これは、
第2四半期の設備投資額、減価償却費、研究開発費、
借入金および人員等の状況です。

2020年3月期第二四半期決算の設備投資額は、約39億3,000万円でした。
主なものは、
アイカテック建材の生産設備増強 約3億2,000万円、
ベトナムでのメラミン化粧板 新工場建設 約6億7,000万円、
アイカ・アジア・パシフィックグループの
設備増強・更新等 約9億1,000万円、等がありました。

1. 第2四半期 セグメント別実績

AICA

[単位:百万円]

	売上高			営業利益			
	2018/9期 実績	2019/9期 計画	2019/9期 実績	2018/9期 実績	2019/9期 計画	2019/9期 実績	
化成品	52,176	54,500	51,349	3,641	3,930	3,955	金額
				7.0%	7.2%	7.7%	利益率
建装建材	38,656	40,700	40,498	7,289	7,680	7,406	金額
				18.9%	18.9%	18.3%	利益率
(配賦不能営業費用→)				▲ 1,261	▲ 1,310	▲ 1,356	金額
合計	90,832	95,200	91,848	9,670	10,300	10,005	金額
				10.6%	10.8%	10.9%	利益率

8

スライドは、2020年3月期第二四半期のセグメント別業績を当初計画と比較したものです。

ここでは、営業利益の増減を中心に、ご説明させていただきます。

化成品セグメントの営業利益は39億5,500万円と、計画の39億3,000万円を上回りました。営業利益率も7.7%と、計画の7.2%を0.5ポイント上回っています。

これは、原材料費の低下と、エバモア社における高利益率品の拡販が、想定を上回るペースで拡大したことが主な要因です。

建装建材セグメントの営業利益は、74億600万円と計画の76億8,000万円を下回りました。営業利益率も18.3%と、計画の18.9%を下回りました。

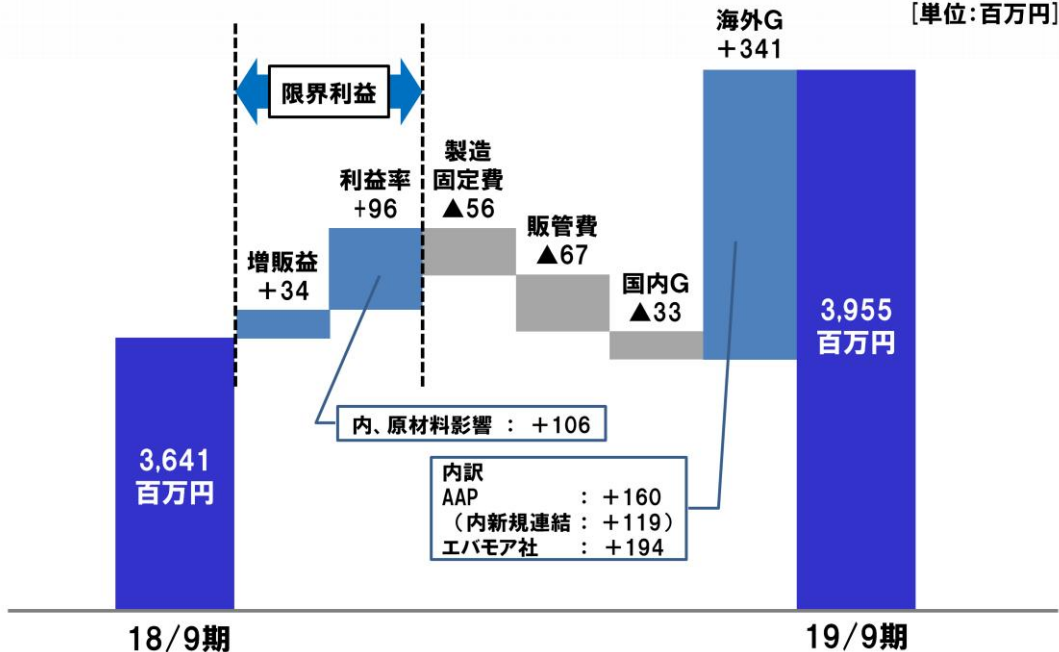
これは、アイカ工業単体における販管費や固定費の増加が主な要因です。

1. 利益増減(化成品) <18/9期vs.19/9期>

AICA

配賦不能営業費用控除前営業利益

[単位:百万円]



※AAP: アイカ・アジア・パシフィック

9

このスライドは、化成品セグメントにおける2019年3月期と2020年3月期の第2四半期の、営業利益の差異について要因別に分析したものです。

利益の改善要因は、アイカ工業単体の販売増や、原材料費影響、アイカ・アジア・パシフィック、略してAAPや、エバモア社による、海外グループ会社の増益で4億7,100万円の増益要因がありました。

一方、利益減少要因といたしましては、製造固定費・販管費の増加、国内グループ会社の減益等で1億5,600万円の減益要因がありました。

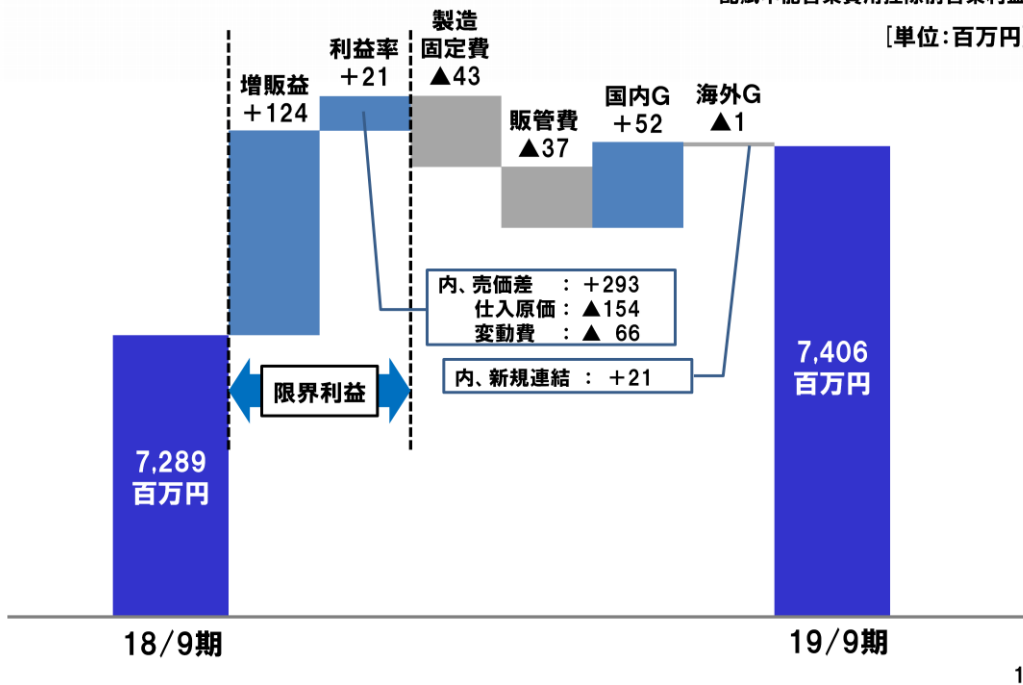
この結果、差し引き3億1,400万円、利益が増加いたしました。

1. 利益増減(建装建材) <18/9期vs.19/9期>

AICA

配賦不能営業費用控除前営業利益

[単位:百万円]



続いて、建装建材セグメントです。

利益の改善要因は、
 アイカ工業単体の増販益や売価差、
 国内グループ会社の増益等で
 1億9,700万円の増益要因がありました。

一方、利益減少要因といたしましては、
 製造固定費や販管費の増加、
 海外グループ会社の減益等で、
 8,100万円の減益要因がありました。

この結果、差し引き1億1,700万円、利益が増加いたしました。

1. 2020年3月期 第2四半期実績
- 2. 2020年3月期 通期計画**
3. セグメントの実績および方策
 - 3-1 化成品セグメント
 - 3-2 建装建材セグメント
4. 中期経営計画C&C2000の進捗
5. 配当について

続いて、今期の通期業績計画について御説明いたします。

2. 2020年3月期 経営環境予測

AICA

国内建設市場

※アイカ需要期へタイムラグ調整済み

2019年3月期(実績)	住宅:▲2.8%	非住宅:+ 2.2%
2020年3月期(期初予想)	住宅:±0.0%	非住宅:▲1.8%
2020年3月期(最新予想)	住宅:▲3.5%	非住宅:▲3.6%

海外市場

一部に景気の減速は見られるものの、底堅い成長を持続

為替換算レート

※各国通貨建てのため、ドル建ての子会社は僅か

2019年3月期(実績)	1USD=110.56円
2020年3月期(期初想定)	1USD=108.00円
2020年3月期(最新想定)	1USD=108.00円

国産ナフサ価格

※すべての原材料がナフサに連動するわけではない

2019年3月期(実績)	51,000円/kl
2020年3月期(期初想定)	45,750円/kl
2020年3月期(最新想定)	41,500円/kl

12

今期の経営環境についてですが、

当社の主力市場である国内建設市場におきましては、消費増税前の駆け込み需要が、住宅の持ち家と分譲で見られましたが、貸家の供給過多や、消費増税後の反動減により、前年比で3.5%程度、減少すると想定しています。

非住宅市場も、人手不足等に起因する飲食店、物販店の新規出店の削減、五輪向け施設の建設における一服感などの影響を受け、3.6%の縮小を予想しています。

一方、海外市場については、米中貿易摩擦の影響から一部の国で輸出に弱さが見られるものの、引き続き中国・アセアンを中心とした国々の成長持続に伴い、接着剤のほか、高品質のメラミン化粧板の需要が拡大すると見込んでおります。

また、為替・ナフサ価格の前提はご覧の通りです。

2. 2020年3月期計画

AICA

[単位:百万円]

	2019/3期 実績		2020/3期 計画			対前期
	金額	利益率	金額	利益率	伸率	増加額
売上高	191,363	-	195,000	-	1.9%	3,636
営業利益	20,834	10.9%	21,800	11.2%	4.6%	965
経常利益	21,249	11.1%	22,000	11.3%	3.5%	750
当期純利益※	13,316	7.0%	13,800	7.1%	3.6%	483
R O E	10.7%	-	10.7%	-	-	-
R O A	7.0%	-	7.1%	-	-	-
一株当たり純利益	203.95円	-	211.35円	-	-	-
一株当たり株主資本	1,936.87円	-	2,022.26円	-	-	-
研究開発費	32.0億円	-	34.0億円	-	-	-
減価償却費	41.7億円	-	48.0億円	-	-	-
設備投資額	78.9億円	-	60.0億円	-	-	-

※:親会社株主に帰属する当期純利益

13

今期の通期業績計画はご覧のとおりです。

国内市場において、着工面積の減少が見込まれること、
海外では、原材料価格が低下し
売価を押し下げる状況が見込まれることから、
通期計画は売上高のみ、2000億円から1950億円へ
下方修正させていただきました。
営業利益等の各利益については、期初計画を据え置いています。

2. 2020年3月期 通期セグメント別業績計画

AICA

[単位:百万円]

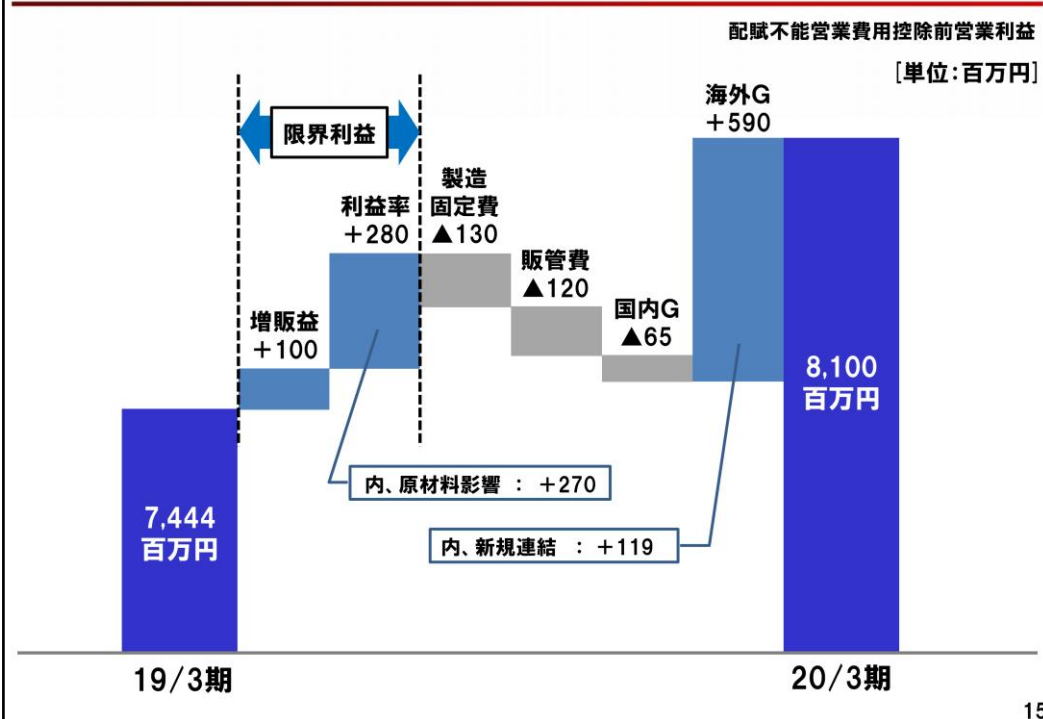
	売上高			営業利益			
	2019/3期 実績	2020/3期 計画	差異	2019/3期 実績	2020/3期 計画	差異	
化成品	109,062	108,700	▲ 362	7,444	8,100	655	金額
				6.8%	7.5%	0.6%	利益率
建装建材	82,300	86,300	3,999	16,169	16,600	430	金額
				19.6%	19.2%	▲ 0.4%	利益率
(配賦不能営業費用→)				▲ 2,779	▲ 2,900	▲ 120	金額
合計	191,363	195,000	3,636	20,834	21,800	965	金額
				10.9%	11.2%	0.3%	利益率

14

通期のセグメント別の売上高・営業利益の計画と、前期との比較はスライドの通りです。

2. 利益増減計画(化成品) <19/3期vs.20/3期>

AICA



15

このスライドは、化成品セグメントにおける
2019年3月期と2020年3月期の営業利益見通しの差異を
要因別に分析したものです。

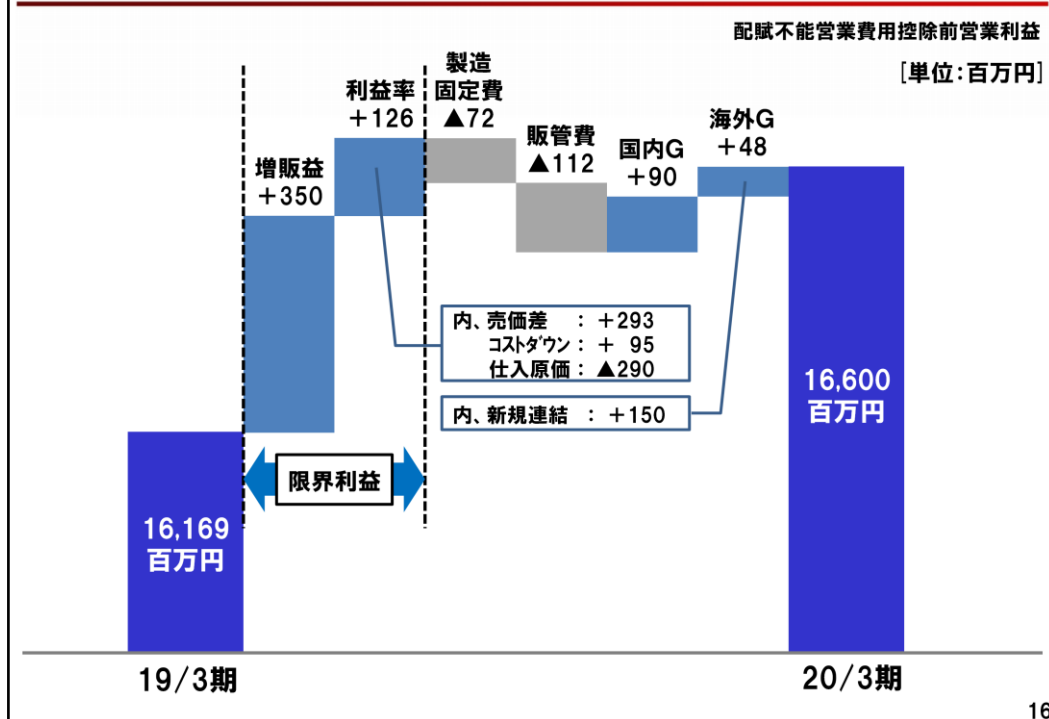
増販益や原材料価格の低下による利益率の改善、
アイカ・アジア・パシフィックやエバモア社等の
海外グループ会社の増益などにより
9億7,000万円の利益を増加させる一方、

製造固定費や販管費の増加
国内グループ会社の減益等により
3億1,500万円の利益減が見込まれますが、

前期に比較して6億5,600万円増の、
営業利益81億円を確保する計画で進めてまいります。

2. 利益増減計画(建築建材) < 19/3期vs.20/3期 >

AICA



続いて、建築建材セグメントです。

増販益やコストダウンによる利益率の改善、
国内・海外グループ会社の増益により
6億1,400万円の利益を増加させる一方、

製造固定費や販管費の増加等により、
1億8,400万円の利益減が見込まれますが、

前期に比較して4億3,100万円増の、
営業利益166億円を確保する計画で進めてまいります。

1. 2020年3月期 第2四半期実績
2. 2020年3月期 通期計画
3. **セグメントの実績および方策**
 - 3-1 **化成品セグメント**
 - 3-2 **建装建材セグメント**
4. 中期経営計画C&C2000の進捗
5. 配当について

続いて、
セグメント別の実績と方策を、
ご説明いたします。

化成品 商品群別売上計画(連結)

	2019/3期(実績)		2020/3期(実績・計画)			
	上半期	通期	上半期実績	伸率	通期計画	伸率
接着剤	307.0億円	659.2億円	315.7億円	2.8%	670.0億円	1.6%
AAP	240.9億円	521.1億円	248.6億円	3.2%	530.0億円	1.7%
建設樹脂	46.4億円	95.8億円	46.8億円	0.9%	98.0億円	2.3%
機能材料	115.8億円	231.6億円	100.8億円	▲ 13.0%	217.0億円	▲ 6.3%
その他	52.4億円	103.9億円	50.1億円	▲ 4.4%	102.0億円	▲ 1.8%
合計	521.7億円	1,090.6億円	513.4億円	▲ 1.6%	1,087.0億円	▲ 0.3%

※AAP:アイカ・アジア・パシフィック

18

まず、化成品セグメントです。
このセグメントは「接着剤」、「建設樹脂」、
非建設分野として注力している「機能材料事業」で
構成しています。

上半期の実績および、通期の計画は、ご覧のとおりです。

3-1 化成品セグメント 実績(接着剤 海外)

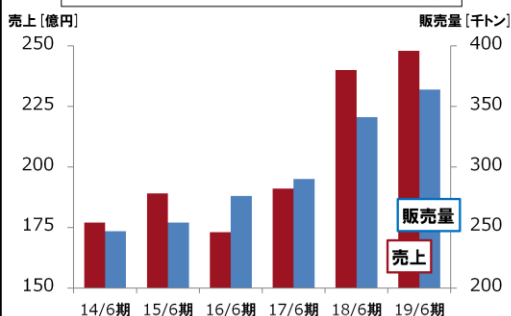
AICA

接着剤 海外:好調

■新規連結効果とシナジー効果で増収

- ・原材料価格低下に伴う売価低下
- ・TCC新規連結効果19億円寄与(1Q分)
- ・AAP×AICAシナジー、13億円実績化(機能材料事業含む)

アイカ・アジア・パシフィック(AAP)の売上・販売量の推移



中国

- 竹用フェノール樹脂 好調
- 販売数量 高止まり 製造能力増強の為
ダイネア南京社隣地「南京鐘騰社」買収

インドネシア

- アイカインドリア社第4工場 稼働開始
- 含浸紙輸出 低調

タイ

- TCC社新反応釜 稼働開始
(日本のフェノール樹脂技術 シナジー)
- 繊維板用樹脂競合激化 低調

接着剤海外 売上:252億円(対前年102.8%)

一部景気減速、原材料価格低下による売価低下を、新規連結効果で挽回

※TCC:タイ・ケミカル・コーポレーション ※AAP:アイカ・アジア・パシフィック

19

海外における接着剤については、アイカ・アジア・パシフィックが、タイ・ケミカル・コーポレーション、略してTCCの第1四半期分の新規連結効果19億円を取り込んだ事や、アイカとのシナジー効果を13億円創出した事などにより、売上高・販売数量ともに伸ばすことができました。

中国については、昨年上期数量ベースで25%という急成長をしていたことから今期は製造能力が上限に近付いており、高止まっていますが、環境対応型の竹用樹脂を中心に好調に推移しています。

インドネシアについては、アイカインドリア社のパスルアンの第4工場が立ち上がりましたが、輸出の減少等により、苦戦しております。

タイについては、繊維板用樹脂の競合環境が激しくなっており、これまでの様に、大きな数量増を達成できていないという状況ですが、TCCは、日本のフェノール樹脂事業部の技術に移管した新反応釜を増設し、好調に推移しています。

3-1 化成品セグメント 実績(接着剤 国内・建設樹脂)

AICA

接着剤国内:好調

■施工用接着剤 好調

- ・セラール専用接着剤 好調
- ・Q-CAT(外装タイルと有機系接着剤の組合せ品質認定制度)適合接着剤* 好調



■木工・家具用接着剤 好調

■産業用フェノール樹脂 低迷

- ・合板用・建材用フェノール樹脂 好調
- ・その他用途フェノール樹脂 低迷

建設樹脂:好調

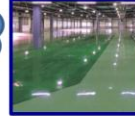
ジョリパット(塗り壁材)



■好調

- ・新デザイン* 好調
- ・リフォーム向け* 好調

ジョリエース(塗床材)



■好調

- ・食品工場向け* 好調
- ・住宅ベランダ用途 好調

ジョリシール/ダイナミックレジン(補修・補強分野)



■低迷

- ・シール材* 好調
- ・インフラ補修補強材* 低迷

接着剤国内 売上:63億円 (対前年103.1%)

建設樹脂 売上:46億円 (対前年100.9%)

*AS商品:社会課題解決型のアイカソリューション商品として拡販に注力している商品

20

次に、国内における接着剤ですが、アイカソリューション商品、略してAS商品として注力しているタイル用接着剤は、タイルの剥落防止に役立つ商品に認められるQ-CAT認定を取得し、拡販が進んでいます。セラール施工用の接着剤や木工家具用の接着剤も好調で、全体としても、前年を上回りました。

建設樹脂については、外装・内装仕上塗材「ジョリパット」は、非住宅市場向けに上市した新デザインブランドや、リフォーム向け商品が好調で、前年を上回りました。

また、塗床材は、工場向け高機能塗り床材「アイカピュール」や住宅ベランダ用防水材が好調で、前年を上回りました。

一方、「ジョリシール」「ダイナミックレジン」は、「ジョリシール」が好調でしたが、インフラ向け補修補強材が低迷し、前年を下回りました。

これらの結果、建設樹脂全体の売上は、前年を上回りました。

3-1 化成品セグメント 実績(機能材料)

AICA

<p>ホットメルト・機能性アクリル</p>  <p>■ 低迷 ・ヘッドランプ用シール材 衛生材用途 → 好調 ・太陽光パネル用途 → 低迷</p>	<p>有機微粒子</p>  <p>■ 低迷 ・化粧品用途遅延 → 低迷 ・海外向け光拡散材 → 低迷</p>
<p>UV樹脂・シリコーン</p>  <p>■ 好調 ・シリコーン → 好調 ・電子材料用途 → 好調</p>	<p>アクリル・コンパウンド</p>  <p>■ 低迷 ・塗料用途 → 低迷 ・繊維用途 → 低迷</p>
<p>エバモア社</p> 	<p>■ 減収増益 ・ウレタン製品 → 靴用途高付加価値品ベトナム向け輸出好調 ・AICA×EMCシナジー → 2.2億円のビジネス創出 ・売上高:52.3億円 営業利益:3.1億円</p>
<p>機能材料事業売上：100億円（対前年87%） アイカ工業単体・・・好調 エバモア社・・・減収、高利益ビジネス増</p>	

※エバモア社:エバモア・ケミカル・インダストリー

21

次に機能材料です。

「ホットメルト・機能性アクリル」は
 ヘッドランプ用シール材や衛生材向けホットメルト接着剤が
 新規採用を獲得し回復の兆しを見せているものの、
 太陽光パネル向けシール材が低迷し、前年を下回りました。

有機微粒子については、
 化粧品用途の納入遅延や海外向けの光拡散材の低調があり、
 前年を下回りました。

「UV樹脂・シリコーン」は、
 エバモア社とのシナジー効果もあり、前年を上回りました。

「アクリル・コンパウンド」は、
 繊維用途、塗料用途などが低調で、前年を下回りました。

また、台湾のエバモア社は、
 原材料価格低下による売価の低下、
 中国向け低採算ビジネスの縮小を受け、
 売上は前年を下回ったものの、
 ベトナム向けの高利益率商品の輸出が拡大し
 利益ベースでは倍以上に成長し、
 売上高52.3億円、営業利益3.1億円と、
 連結業績に寄与しました。

これらの結果、機能材料事業全体の売上は、
 前年を下回りました。

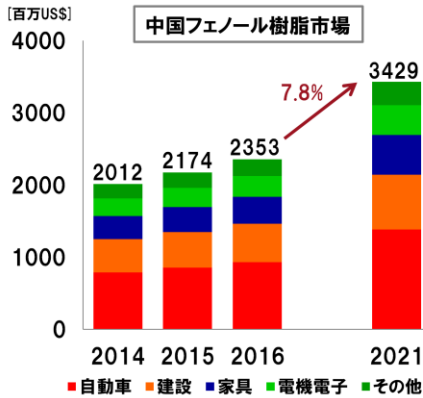
3-1 化成品セグメント 方策(接着剤 海外)

AICA

海外

中国ビジネスの拡大

中国のフェノール樹脂の市場は金額ベースで2021年まで年率7.8%で成長する予想



南京鐘騰(Zhong Teng)社の買収

対象会社	南京鐘騰(Zhong Teng)化工有限公司
設立	2006年1月
事業内容	化成品の製造販売
事業拠点	中国南京化学工業園区 (AAPダイネア南京社の隣)
目的	ノボラック型フェノール樹脂工場建設 レゾール型フェノール樹脂製造設備増強 機能材料事業製品の製造設備増強 メラミン化粧板生産工場建設の検討
買収価額	約13.3億円
出資比率	ダイネア南京社 100%
取得時期	2019年9月

海外接着剤 通期売上計画：540億円（対前年101.5%）
フェノール樹脂ビジネスの拡大

※AAP:アイカ・アジア・パシフィック

22

続きまして、今後の重点方策についてご説明します。

海外の接着剤については、アイカ・アジア・パシフィック、略してAAPを中心に、既存ビジネスの拡大を図ります。

特に中国は、環境対応の産業用樹脂が好調で生産キャパシティが上限に近付いている点、また、今後も産業用樹脂の市場拡大が見込まれていることから、当社のAAP子会社、ダイネア南京社の隣に位置する南京鐘騰(ゾンテン)社の株式を取得しました。ここに、新工場を増設し、持続的な成長を目指します。

また、広大な土地が手に入ったことから、この場所に、ノボラック型のフェノール樹脂の工場やメラミン化粧板工場を建設していくことも検討できると考えています。

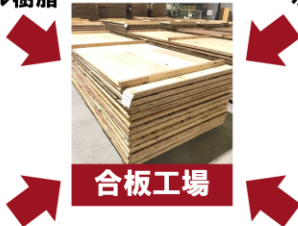
ノボラック型のフェノール樹脂とは、自動車や電子機器向けなどに使われるホルムアルデヒド放散が少ない固形のフェノール樹脂です。これまでAAPでは作ることができませんでしたが、南京拠点に日本のフェノール樹脂事業部の製造技術を移管し、中国でも製造し、今後拡大が見込まれる中国の市場を獲得していきます。

3-1 化成品セグメント 方策(接着剤 国内・建設樹脂) **AICA**

接着剤 国内

- フェノール樹脂を中心とした複数商品の納入

接着用途
フェノール樹脂



単板横はぎ
ホットメルト

合板工場

フロア台板
練り合わせ
酢酸ビニル樹脂

抜節埋め
パテ

建設樹脂

- ジョリパット(塗り壁材)

⇒ (株)装武との資本業務提携

- ・大手ハウスメーカー外壁改修塗装工事の請負
- ・省施工型新商品、改修向け新商品の開発



- ・1989年設立 ・売上高:955百万円
- ・昨年度約1,400棟の住宅外壁塗装工事実績有
- ・高いジョリパット施工技術保有
- ・出資比率:アイカ工業40%

- ダイナミックレジン(補修・補強分野)

⇒ クリアガード工法のクライアント活動

接着剤国内 通期売上計画：130億円（対前年102.0%）

建設樹脂 通期売上計画：98億円（対前年102.3%）

23

接着剤の国内事業については、フェノール樹脂を中心に、合板・LVL工場に向けて、ホットメルトや酢酸ビニル樹脂、節埋め用パテ等、種々の樹脂を総合的に納入する事を目指します。

また、建設樹脂については、ハウスメーカーを中心に、材料メーカーを施工の受け皿とする傾向がここ数年定着してきました。

こうした状況を踏まえ、ハウスメーカーのリフォーム塗装工事に多くの実績を有する「株式会社装武」に出資し、ジョリパットによる外壁塗装を、材料から施工までワンストップで提案できる体制を構築する事と致しました。

3-1 化成品セグメント 方策(機能材料)

AICA

エバモア社、ベトナム2社を買収し成長投資



対象会社	U-Best社・上曜社
事業内容	ウレタン樹脂の製造販売
事業拠点	ベトナム ドンナイ省(2社は隣接)
目的	靴メーカーの現地需要取り込み
買収価額	約9.8億円(2社の単純合算)
出資比率	エバモア社 100%
取得時期	2020年1月(予定)

- U-BEST社、上曜社(ホーチミン近郊)
- エバモア社(台湾/南投、中国/東莞、上海)

機能材料事業 通期売上計画：217億円（対前年93.7%）

※エバモア社:エバモア・ケミカル・インダストリー

24

機能材料事業については、台湾のエバモア社を通じて、2社のベトナム企業の買収を行います。

エバモア社は、台湾や中国で靴・繊維・日用品用途のウレタン樹脂を製造しています。近年、主要顧客の一部に、生産拠点を中国からベトナムへ移転する動きが出ており、ベトナム向けの輸出が増加しています。

現在、エバモア社は、運動靴のソール用のポリウレタンシステム(PUS)のベトナム市場において、トップシェアを獲得しています。

一方、買収するU-Best社と上曜社の2社は、隣接した敷地とウレタン樹脂製造設備を保有しています。今回、両社の株式を取得することにより、エバモア社は十分な生産工場用地と、製造設備を手に入れる事となります。

その結果、今後更なる拡大が見込まれるベトナムのウレタン樹脂市場で一層のシェア拡大を目指す事が可能になります。

建装建材 商品群別売上計画(連結)

	2019/3期(実績)		2020/3期(実績・計画)			
	上半期	通期	上半期実績	伸率	通期計画	伸率
メラミン化粧板	80.6億円	173.4億円	89.8億円	11.4%	202.0億円	16.5%
ボード フィルム等	64.9億円	137.3億円	62.1億円	▲ 4.4%	132.0億円	▲ 3.9%
セラール	91.6億円	197.0億円	100.9億円	10.1%	209.0億円	6.1%
不燃建材	46.7億円	97.4億円	47.7億円	2.3%	100.0億円	2.6%
カウンター ポストフォーム	76.2億円	163.5億円	79.5億円	4.3%	169.0億円	3.3%
建具 インテリア建材	26.2億円	54.1億円	24.6億円	▲ 6.0%	51.0億円	▲ 5.8%
合計	386.5億円	823.0億円	404.9億円	4.8%	863.0億円	4.9%

25

続いて建装建材セグメントです。

このセグメントは、「メラミン化粧板」、「ボード・フィルム等」、「セラール」、「不燃建材」、「カウンター・ポストフォーム」、「建具・インテリア建材」で構成しています。

上半期の実績および、通期の計画は、ご覧のとおりです。

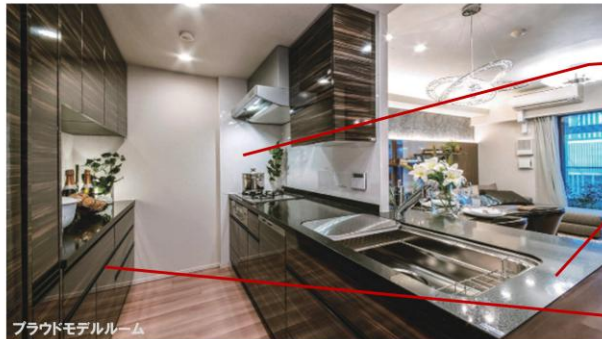
3-2 建装建材セグメント 実績

AICA

国内建設市場の市場環境

※アイカ需要期へずらし済み		
期初予想	住宅: ±0.0%	非住宅: ▲1.8%
上期実績	住宅: +0.2%	非住宅: ▲1.3%
下期予想	住宅: ▲6.9%	非住宅: ▲6.0%
通期予想	住宅: ▲3.5%	非住宅: ▲3.6%

「1物件・複数商談」
家具/カウンター/壁/床
トータル販売の推進



売上: 404億円 (対前年104.8%)
セラールは市場環境以上に伸長 タイルや天然石の代替需要取込

26

国内の建設市場は、住宅着工戸数は回復しましたが、非住宅着工面積が減少し、建装建材事業の市場環境は、マイナス基調で推移しました。

昨年行った値上の影響から、前年並みの売上高は確保することができましたが、販売数量が伸び悩み、操業度が上がらず、利益率は低下いたしました。

その様な中でも、セラールは、数量・売上高・利益額、全てにおいて前年を上回り、代替する材料の無い素材として、強い商品力が証明されました。

3-2 建装建材セグメント 実績

AICA

■ アイカインテリア工業新工場の本格稼働開始



- アイカインテリア工業 茨城工場
- 2019年3月稼働開始
- 総投資額 10億円
- 高級人造石「フィオレストーン」、セラミックタイル「ラミナム」のカウンター加工

セラミックタイル ラミナム
LAMINAM®



高級人造石 フィオレストーン
Fiore Stone
Quartz Surface



ストーン事業(人工大理石+人造石+セラミックタイル)の売上高

2018年度上期 **19.5**億円 → 2019年度上期 **23.6**億円

建装建材セグメント通期売上計画：863億円（対前年104.9%）

天然石市場 → 人造石・セラミックタイルへの置き換え需要取り込み

27

また、2019年3月に稼働を開始した
アイカインテリア工業 茨城工場も業績に寄与しました。

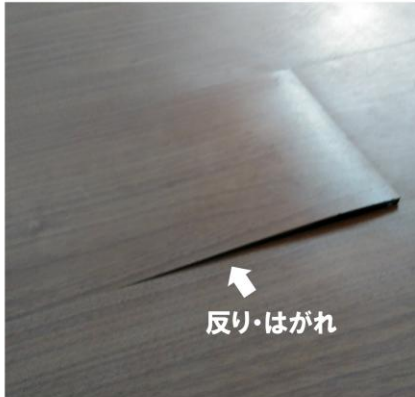
キッチンや洗面の天板、造作のカウンターにおいて、
天然石からの置き換えで急成長し、
ストーン事業全体の売上高を、前年上半期の19.5億円から、
23.6億円へ高めることができました。

3-2 建装建材セグメント（メラミンフロアの開発）

AICA

■化学技術の建材への応用

メラミン系床材が今まで普及しなかった背景



自動車等の繊維向けコーティング剤に使用される樹脂

床材に応用



反りを抑制



機能材料事業 & 建装建材事業 シナジー効果

28

また、7月には、新商品メラミンフロアを上市しました。

これまで、メラミン化粧板は、反りが大きかった事から床に貼った場合、浮きやはがれが発生し、床用途には使用する事ができませんでした。

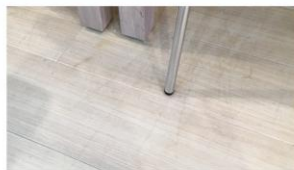
機能材料事業がカーシート用の繊維向けに開発したアクリル樹脂を、メラミン化粧板のコア層に用いることで、反りを抑制することができ、新規の床材を開発することができました。

3-2 建装建材セグメント（メラミンフロアの開発）

AICA



セラミックタイルの欠点
・割れる ・重い ・施工しにくい



塩ビタイルの欠点
・汚れやすい ・ワックス掛けが必要



高圧メラミンフロアタイル

MELAMINE TILE

メラミンタイル

割れにくい 軽い ワックス不要 汚れにくい

汚れが落としやすい 簡易施工

<全く新しい床材が誕生>

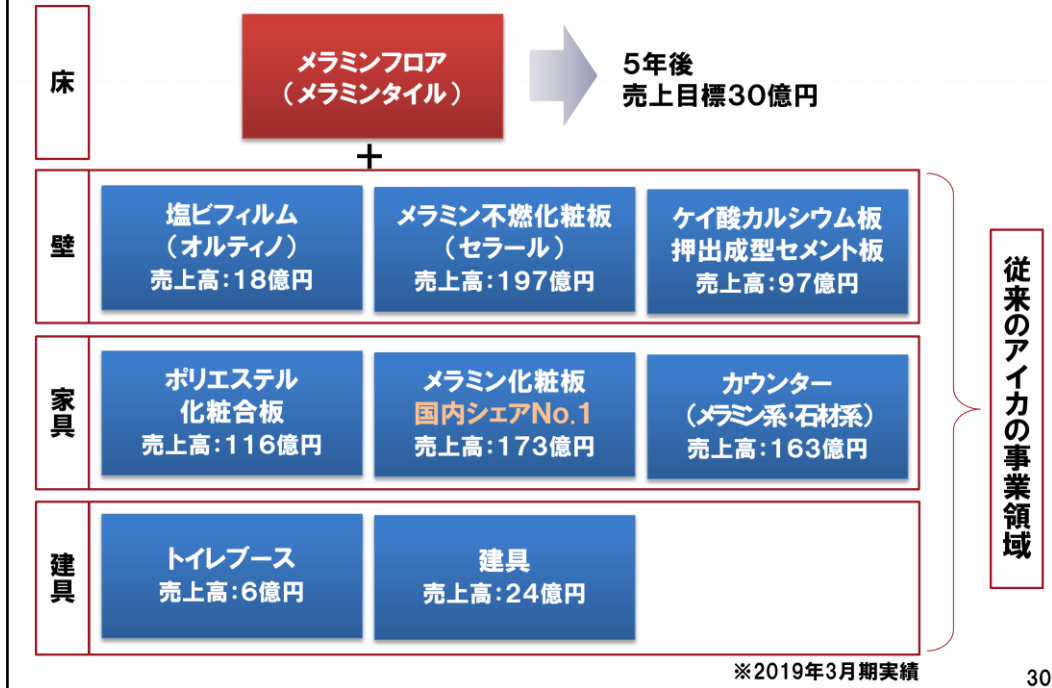
市場初の新商品の開発に成功

29

メラミンタイルは、セラミックタイルや塩ビタイルの弱点を補った、まったく新しい床材です。

3-2 建装建材セグメント（メラミンフロアの開発）

AICA

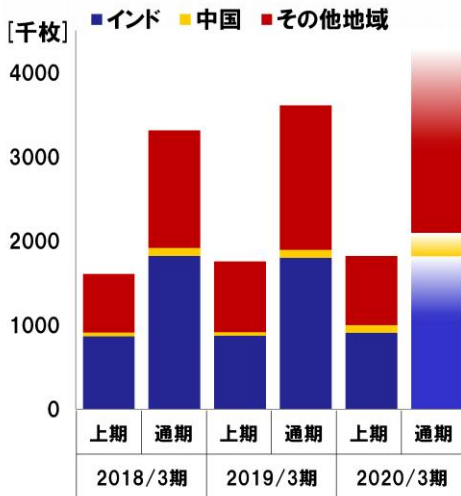


これを切り口にすることで、
今まで全く獲得することができていなかった
床市場において、5年後に30億円の新たな売上を創出します。

3-2 建装建材セグメント 実績（海外）

AICA

メラミン化粧板 海外販売枚数の推移



販売網・製造能力の強化



アイカ・ラミネーツ・ベトナム(ALV)
2019年5月 化粧板新工場 稼働開始
投資額:約24億円
海外のメラミン化粧板製造能力1.3倍に

SOIS MENDINNI™

ソイス社(上海市)
2019年4月子会社化 売上高5.5億円(3ヶ月)
中国主要地域の教育施設に強力な販路あり

メラミン化粧板海外販売 【枚数】 対前年106.9%
【売上】 33.7億円

一方、海外におけるメラミン化粧板事業は、タイやベトナムを中心に、販売数量が伸びています。

一昨年の12月には、この旺盛な化粧板需要に対応するために、アイカ・ラミネーツ・ベトナムを設立し、ホーチミン近郊に工場を建設し、今年5月より稼働を開始しています。

また、中国におけるメラミン化粧板商社であるソイス社が、第2四半期から連結を開始し、メラミン化粧板やセラールの販売を進め、3ヶ月で約5.5億円の売上を上げています。

3-2 建装建材セグメント (Wilsonart社の買収)

AICA

Wilsonart LLC (米国) が保有するアジアの事業会社4社を、
日本政策投資銀行(DBJ)と共同で買収



■買収対象先の概要

対象会社	Wilsonart LLCが保有するアジアの4事業会社
事業内容	化粧板、不燃化粧板等の製造販売
事業拠点	上海、香港、バンコク、シドニー
売上高	約92億円(2018年12月期、4社の単純合算)
経常利益	約10億円(2018年12月期、4社の単純合算)
従業員	約500名
出資比率	アイカ工業 51%以上 日本政策投資銀行(DBJ) 49%以下

■本件買収の目的

- 高いブランド力
- アイカグループと補完性のある生産拠点
- アジア広域の販売網

入手

成長するアジア市場 獲得

海外建装建材ビジネス 加速

32

そして、今月、世界No.1のメラミン化粧板メーカー、
ウイルソナート社のアジア・オセアニア地域の子会社を
買収する事を発表いたしました。

ウイルソナート社は、1998年にアジア・オセアニア地域へ進出し、
タイ、中国、オーストラリアに生産拠点を有するとともに、
同地域に強固な販売網を構築し、高級メラミン化粧板ブランドとして、
建築・設計業界で、高い認知度とシェアを築いています。

今回の株式取得により、
当社はアジア・オセアニア地域における
きめ細かい生産拠点、販売網、ブランド力を獲得し、
海外建装建材ビジネスのプラットフォームが格段に整備されます。

3-2 建装建材セグメント（ベトナム化粧板商社の買収） **AICA**



CHIグループ各社の化粧板事業を譲り受けた
新設会社の株式取得・子会社化

対象会社	CHIグループ8社の事業を移管した 新設会社
新会社名 (予定)	AICA HPL Trading Joint Stock Company (AHT)
事業内容	メラミン化粧板の販売
事業拠点	ベトナム ハノイ(他事業拠点12ヶ所)
目的	ベトナムでの販路獲得
出資比率	AALH社 70%
取得時期	2020年2月(予定)
売上高	約18億円(2018年実績)

ベトナムのHPL市場シェア約3割の獲得

アイカ・ラミネーツ・ベトナム新工場の生産能力フル活用

※AHT: アイカ・HPL・トレーディング社 ※HPL: High Pressure Laminate(高圧メラミン化粧板)
※AALH社: アイカ・アジア・ラミネーツ・ホールディング社

33

さらに、ベトナム国内で約3割のシェアをもつ
化粧板商社「CHIグループ各社」の事業を引き継ぐ
「新設会社」の株式取得、子会社化についても、
先週発表いたしました。

新設会社の名前は、
アイカ・HPL・トレーディング社となる予定です。

ベトナムには、本年5月にアイカ・ラミネーツ・ベトナムの新工場が
稼働を開始していますが、その生産能力をフル活用するための、
強力な販路を獲得することができたと考えています。

3-2 建装建材セグメント（主要拠点）

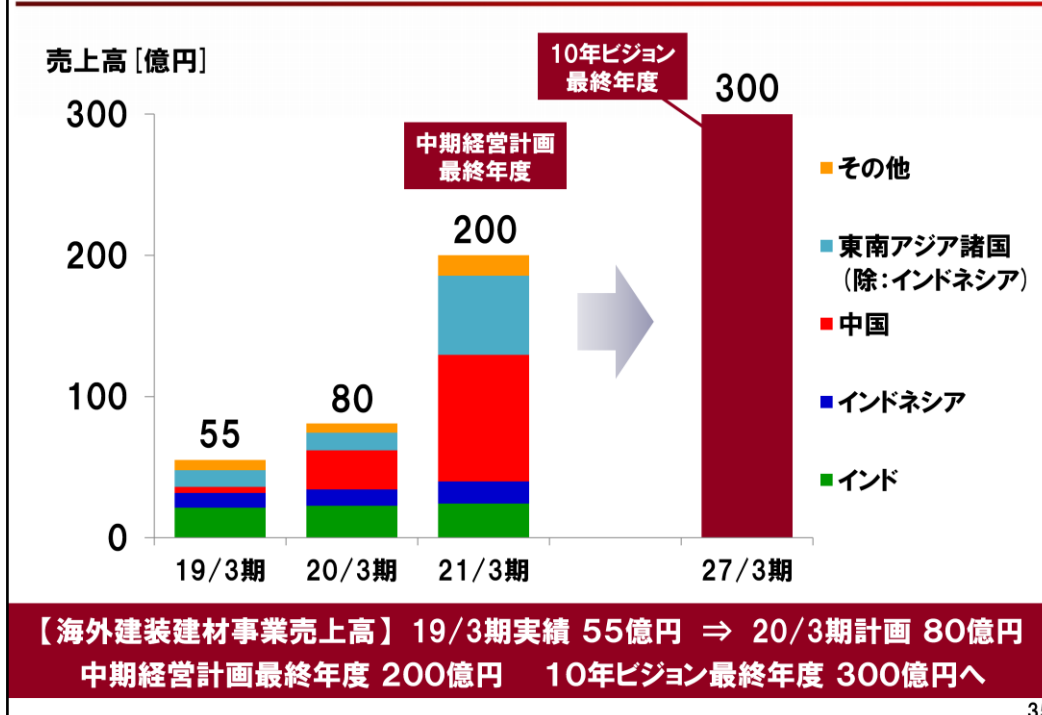


これらの案件を加えた当社の建装建材事業の海外の主要拠点は、ご覧の通りとなります。

現状のアイカグループ連結子会社がインドネシア、インド、ベトナムに生産拠点を有するのに対し、ウイルソナートのアジア・オセアニア子会社は、タイ、中国、オーストラリアに生産拠点を有し、地理的に補完関係にあります。

これにより、メラミン化粧板生産工場は、これまでの4カ国7拠点から7カ国10拠点到広がります。

3-2 建装建材セグメント（海外）計画



これらの買収により、当社の建装建材事業の海外売上高は、
 来期200億円、海外売上比率20%以上を見込んでいます。

10年ビジョン最終年度2027年3月期には、
 300億円の売上高を目指し、
 早期にシナジーを高めて参りたいと考えております。

1. 2020年3月期 第2四半期実績
2. 2020年3月期 通期計画
3. セグメントの実績および方策
 - 3-1 化成品セグメント
 - 3-2 建装建材セグメント
- 4. 中期経営計画C&C2000の進捗**
5. 配当について

続いて、中期経営計画の進捗を
ご報告いたします。

4. 中期経営計画(2018/3期-2021/3期)の進捗

AICA



項目	2018/3期 (実績)	2019/3期 (実績)	2020/3期 (計画)	2021/3期 (当初中計)
売上高	1,637億円	1,913億円	1,950億円	2,000億円
経常利益	196億円	212億円	220億円	220億円
ROE	10.1%	10.7%	10.7%	10%以上
海外売上比率	33.4%	42.0%	41%以上	35%以上

中期経営計画 目標2,000億円(年率7%成長)
グループ一丸となり推進

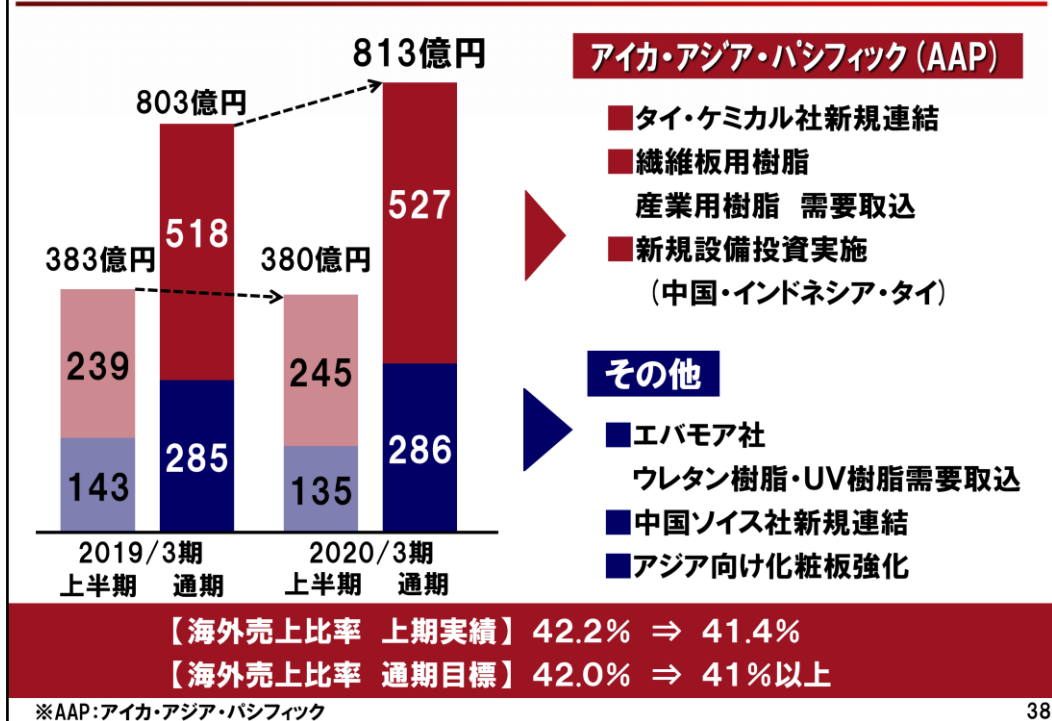
37

中期経営計画の進捗はスライドの通りです。

売上高を除く、経常利益、ROE、海外売上比率は
今期、1年前倒しで達成する見通しです。

4. 海外事業の実績および計画

AICA



38

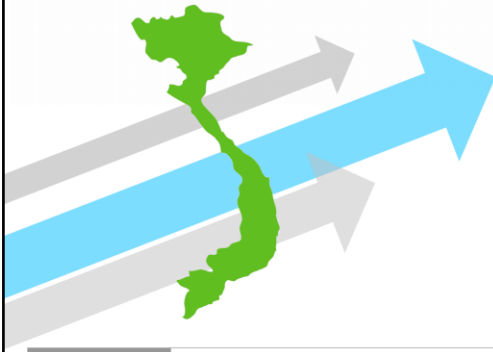
特に海外売上比率は、当初の想定よりも早いスピードで上昇しており、今期は813億円、41%以上を達成する見通しです。

アイカ・アジア・パシフィックやエバモア社で、原材料価格低下による売価低下が起こり、売上高の伸びは小さいものとなりますが、利益面での寄与度は高まっています。

アジア・オセアニア地域における設備投資、事業投資を積極的に進めることで、更なる成長を目指してまいります。

4.TOPICS ベトナムでの事業展開

AICA



ベトナム経済の成長

1. 若年齢人口率 高
2. チャイナプラスワン
3. 中産階級層 拡大
4. 外資系企業 投資増

⇒ 今後の成長持続

2008年10月	西東京ケミックス	化学品商社	化成品	販
2012年9月	アイカベトナム社	建設樹脂(ジョリエース)	化成品	製 販
2012年12月	アイカドンナイ社(AAPグループ)	接着剤・繊維板用樹脂 (フェノール樹脂、 尿素樹脂、溶剤ゴム系、酢ビ、水ビ)	化成品	製 販
2019年5月	アイカ・ラミネーツ・ベトナム 新工場	メラミン化粧板・セラール	建装建材	製 販
2019年10月	U-BEST社・上曜社(エバモア社)	機能材料(ウレタン樹脂)	機能材料	製 販
2019年11月	アイカ・HPL・トレーディング社(AALH)	メラミン化粧板・セラール・ 化粧フィルム	建装建材	販

※AAP:アイカ・アジア・パシフィック ※AALH:アイカ・アジア・ラミネーツ・ホールディング

39

特にベトナム市場について、事業展開が進んで参りましたので、
ここで御紹介させていただきます。

ベトナムは、労働人口の割合が高く、
年々生産能力が上昇しており、チャイナプラスワンと呼ばれるなど
中国からの生産移管も盛んな、注目市場です。

ベトナムにおいては、
2018年までは化成品事業の3社で事業を展開しておりましたが、
今期から来期にかけて新たに建装建材事業の2社、
機能材料事業の2社の合わせて4社が加わります。

これで、化成品から建装建材、機能材料まで、
豊富な商品群を、幅広い販路で拡販する体制が整います。

急成長するベトナムの市場において、
先行者利益を得るために、積極的に投資を進めて参ります。

4. 中期経営計画(2018/3期-2021/3期)の進捗

AICA



	4年累計 投資計画	1年目 投資実績	2年目 投資実績	3年目 上期進捗
設備投資	220億円	45.2億円	78.9億円	39.3億円
事業投資	180億円	52.6億円	—	約140億円 [※]
+				
研究開発費	140億円	28.5億円	32.0億円	16.3億円
人財投資	グローバル人材積極採用/育成・働き方改革 プロフェッショナル人材育成・ダイバーシティ推進			

長期戦略実現に向け、積極的に投資を実行

※予定

40

中期経営計画における投資計画の進捗はスライドの通りです。

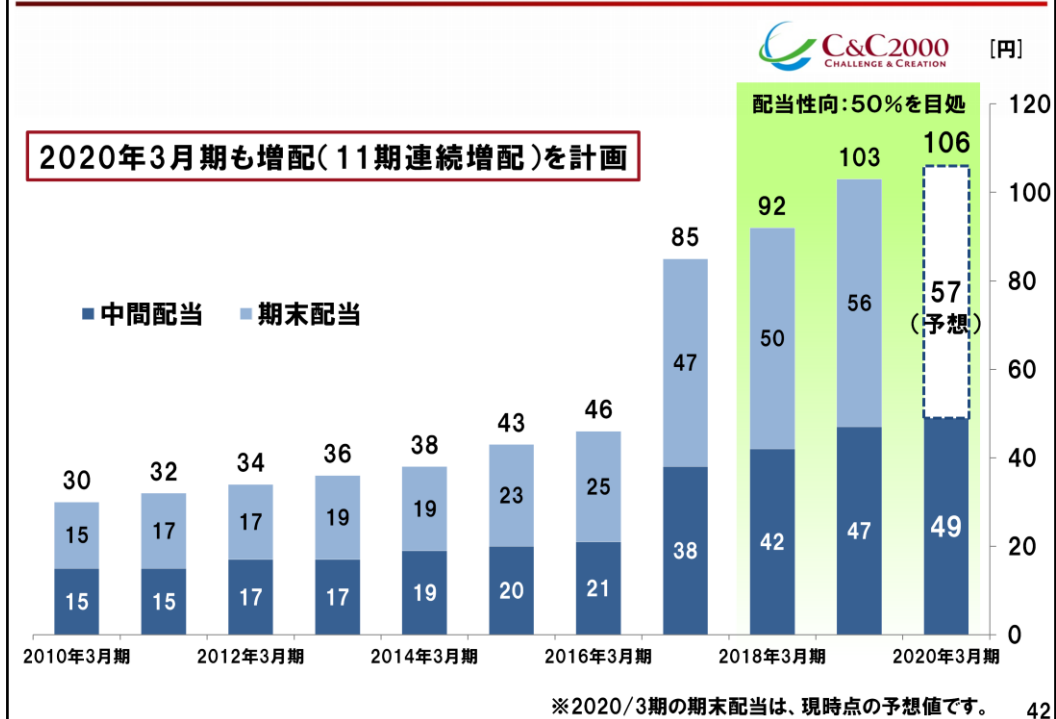
概ね計画通り進んでおり、長期戦略実現に向け、引き続き、積極的に成長投資を実行していく計画です。

1. 2020年3月期 第2四半期実績
2. 2020年3月期 通期計画
3. セグメントの実績および方策
 - 3-1 化成品セグメント
 - 3-2 建装建材セグメント
4. 中期経営計画C&C2000の進捗
- 5. 配当について**

最後に、配当についてです。

5. 配当について

AICA



当社は、株主の皆さまへの利益還元と会社の持続的な成長を実現するため、各期の連結業績、配当性向および内部留保を総合的に勘案したうえで配当を行ってまいります。

今中期経営計画「C&C2000」においては、配当性向50%を目処に、連結業績に連動した株主還元を実施しており、2020年3月期の配当は、3円増配の106円を予定しております。



C&C2000
CHALLENGE & CREATION

アイカ工業株式会社

以上で私の説明を終わらせて頂きます。

今後とも、継続的に情報開示に努めてまいりますので、

何卒、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ご静聴ありがとうございました。